

第18回

グローブ文芸朗読会



グローブ文芸朗読会

ディケンズ公開朗読台本 (英光社版) 出版記念公演

■作・チャールズ・ディケンズ ■訳・梅宮 創造 ■発行・藤平 英一



ナンシー撲殺

ドクター・マリゴールド

朗読

佐藤 昇

朗読

薮 英治

日 時 2011年6月11日(土)
会 場 衍芸館 (かんげいかん) (03-5347-2668)
会 費 2,000円
開 場 17:45 開演 18:00



JR中央線・地下鉄丸の内線荻窪駅南口より徒歩7分
区立中央図書館・体育館
手前

■お問い合わせ・予約先

Tel 090-8745-0417 〒272-081市川市若宮3-55-28 グローブ文芸朗読会 佐藤 昇

「ディケンズと公開朗読」より抜粋 朗読はもはや単なるおとなしい本読みであるはずがなく、演劇の魔手に犯されまいとしながらも、おのずから演劇の域に引きずり込まれてしまうという、自ら制御しがたい分裂の相をあらわに見せているのだ。ディケンズの朗読はこの自己矛盾と云おうか、二種の欲望のせめぎ合いと云うべきか、意識と無意識のなかで交錯するアンヴィバレンス上に座を占めていた。

(梅宮 創造・早稲田大学教授)

翻訳者プロフィール

梅宮 創造 Umemiya SouZou



早稲田大学教授。主な訳書に『夢魔邸』（旺史社）、『無名なるイギリス人の日記』（王国社）、『じじバカ』（サンマーク社）、『英国紳士・サミュエル・ピクウィク氏の冒険』（未知谷）など。イギリス文学を専門とするが、専門奴隷となることをいさぎよしとせず、文学のもつ滋養分と毒素に、新しい表現様式の発見をめざす。近年ディケンズの「公開朗読」に注目し、「台本」の翻訳を試みるのも、その模索の一つ。また演劇への興味、とりわけシェイクスピア熱は冷めやらず、十年前に行なった文京区主催の連続講演と、それから生まれた『はじめて

のシェイクスピア』（王国社）の出版以来、ますます熱くなるばかり。三年前に特別研究の機会を得て、ロンドンに一年間在住し、その折の苦楽にみちた「模索」さまざまを現在執筆中。また、「ディケンズ・公開朗読台本」（英光社）好評発売中です。

出演者プロフィール

佐藤 昇



1950年、山形県真室川町に生まれる。

劇団近代座、シェイクスピア・シアターを経て1988年『尺には尺を』（グレン・ウォルフォード・演出）でシェイクスピア劇全37作品に出演達成。1997年一人芝居「傘男」（藤本義一・作）を上演し、アクターズ・フェスティバルNAGOYA'97金のシャチ賞コンクールに参加。

2000年のクリスマスよりチャールズ・ディケンズの公開朗読台本の朗読を開始。2005年3月、ディケンズフェロウシップのフィラデルフィア支部、ニューヨーク支部にて「ドクター・マリゴールド」を朗読。2008年7月、早稲田大学英文学部にて、

ディケンズ公開朗読台本「ディビッド・コバフィールド」（梅宮創造・訳）を朗読。2010年11月、甲南大学英米文学科で「リリバー夫人の貸間」（西條隆雄・訳）を朗読。現在、グローブ文芸朗読会を拠点として狛江市立古民家園の「むいから民家園で聞く朗読会」は2002年より開始し、今年で26回目を迎えた。また「武宮朗読会」ではチャーホフ作品を中心に活動している。映画「タンポポ」「マルサの女・II」TV「うちの子にかぎって」「パパはニュースキャスター」など。グローブ文芸朗読会代表。

薮 英治



福島県生まれ。シェイクスピア・シアターにて、シェイクスピア作品多数に出演。退団後、グローブ朗読会をはじめ、ヴィオロン朗読会、武宮朗読会にて、ディケンズ、ホーソン、ポー、チャーホフ、中原中也、小林秀雄等を朗読。

2004年～05年「文鳥舎ことのはライブ」で牧野信一作品を連続朗読。2009年高松市にて「ヒイラギ旅館のブーツ」（ディケンズ・作）を朗読。2010年朗読劇「マクベス」演出、出演。2008～10年朗読劇「クリスマス・キャロル」台本構成、演出、出演。2011年4月、朗読劇「マクベス」再演、朗読劇「ヴェニス商人（法廷の場）」を演出、出演。